

おひざのうえで 2026③

(副園長の子育て応援 Letter)

「受け継がれていくもの」

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで



私事ではありますが、先月、母が92歳で静かに息を引き取りました。まるで眠っているかのような、とても穏やかな最期でした。

ふと山椒の実を炊きたくなったり、庭の花の手入れをしていると、今もなお、母が私の中に生きていることを感じます。母は歴史や仏像が大好きで、父とともに国内各地はもちろん、ウズベキスタンやヒマラヤ、シルクロード周辺まで史跡を巡る旅を楽しんでいました。

また、木彫りや陶芸、編み物など多趣味で、やがて出会ったパッチワークは、母の人生そのものと言えるほど大切なものになりました。作品展や教室を開き、色彩豊かな作品をたくさん残してくれました。

厳格な家に育ちながらも、おちゃめで、楽しいことが大好きだった母。仕事で忙しい私に代わり、いつも笑顔で孫たちを見守り育ててくれました。今の娘や息子があるのも、母のおかげだと感じています。

母のアルバムには、友人たちとの楽しそうな笑顔や、見知らぬ海外の風景の中で微笑む姿がたくさん残っていました。もっと元気なうちに、たくさん話を聞けばよかった。もっと一緒に出かければよかった。そんな思いもあります。

けれど今は、母が残してくれた感性や彩りが、私の日々の中に静かに息づいていることを感じています。親は亡くなっても、その人らしさや生き方は、確かに次の世代の中に残っていくのですね。

では、私たちは子どもたちに、何を残していけるのでしょうか。

今年、せんりひじり幼稚園は60周年を迎えます。

私がこの園に就職したのは40年前。ちょうど20周年の年でした。

当時から、せんりひじり幼稚園(新千里幼稚園)には「よりよい保育を学び続ける」という文化がありました。先代の園長・副園長のもと、職員はさまざまな研修に参加し、その時代に必要な保育や環境を模索していました。

40年の間に、保育内容や子どもを取り巻く環境は大きく変わりました。けれども、「子どもたちのために、よりよいものを探し続けたい」という思いは、今も変わらず受け継がれています。

ふとした場面で、今の園長の中に前園長・前副園長の思いを感じることがあります。人は亡くなっても、その思いや価値観は、人から人へと受け継がれていくのだと思います。

子どもを育てる中では、「どのように関わることが、この子にとってよいのだろう」と悩み、考える場面がたくさんあると思います。人それぞれ考え方は違って、大人の生き方や価値観は、言葉以上に子どもたちへ伝わっていくものかもしれません。

だからこそ、自分自身に問いかけながら、子どもたちに何を残していきたいのかを考え、日々を重ねていきたいと思っています。

ちなみに、せんりひじり幼稚園の本当の誕生日は9月4日なのです。

なぜ創立記念日を6月にしているのかというと、毎年、先生たちみんなで他園見学や研修に出かけるためです。9月は2学期が始まったばかりで慌ただしく、なかなか平日に休みを取りにくいいため、比較的予定を調整しやすい6月に創立記念日を変更しました。

「お誕生日が一緒ですね」と喜んでくださった6月生まれの皆さま、本当にごめんなさい。実は、せんりひじり幼稚園は9月4日生まれでした。

人も園も、これまで真摯に向き合い、支えてくださった方々の思いが積み重なって、今があるのだと感じています。私自身も、そして園も、これまで関わってくださったすべての方々への感謝の気持ちでいっぱいです。



開園当初の せんりひじり幼稚園(当初は新千里幼稚園)